

5分で読める

ちょっと役に立つ

## 『山の遭難』

### Q & A

御嶽山の噴火災害で多くの登山者が被害を被りました。今回の災害の場合は噴火による山の遭難です。自然災害による遭難ですが、最近では登山者人口も増え、道に迷ったり、軽装備で遭難するケースも増えています。山登りは自己責任です。改めて山の遭難のデータと遭難予防対策を調べてみました。参考にしてください

平成26年11月

## どんな人が山に登るのかな？



登山者の年齢構成はどうなっているのですか？



中高年者やいわゆる「山ガール」といわれる女性が増えています。とくに50歳～70歳代の中高年齢者の登山者が増えています。

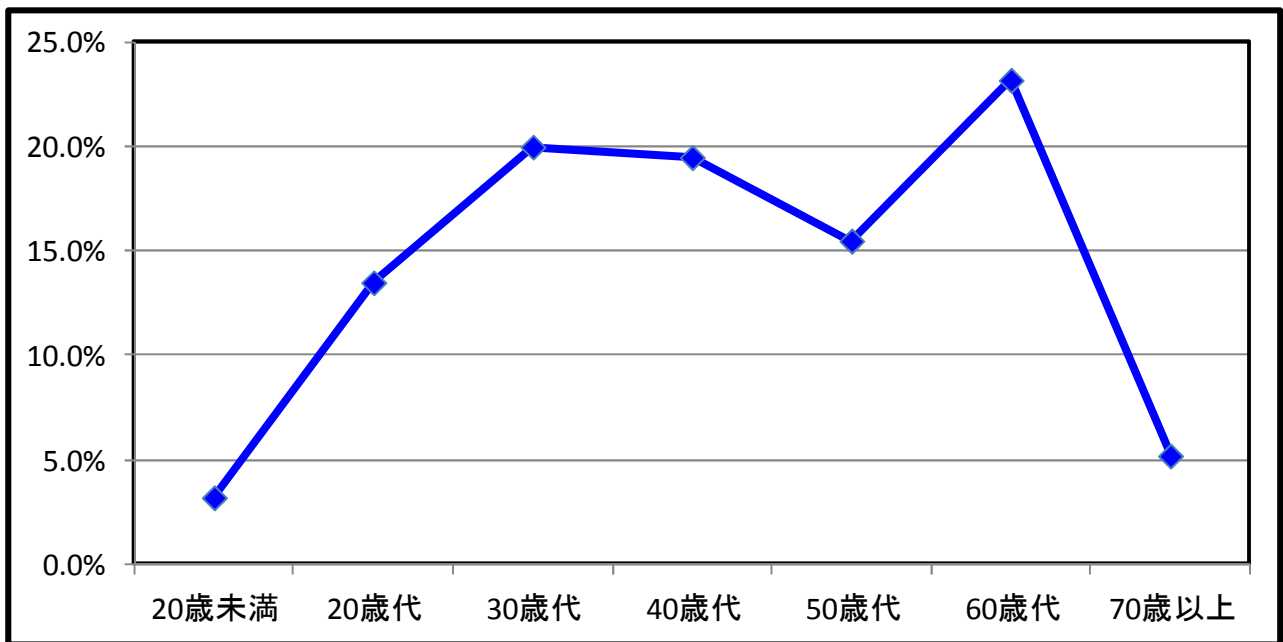
これらの方を分類すると以下のようになります。

- ①若いころから継続して登山している人(継続組)。
  - ②一時登山から離れていたが退職等をきっかけに再度始めた人(カムバック組)。
  - ③中高年になって始めた人(ビギナー組)。
- などがおります。

①～③の方で遭難原因として共通しているのは、現在も若い頃の登山体験を続けられると思って無理をして遭難するケース。

若い頃の体力や健康状態と現在の体力や健康状態の違いを理解しないで無理な登山をして遭難するケースです。

## 登山者の年齢構成



20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
3.2%	13.5%	20.0%	19.5%	15.5%	23.2%	5.2%

登山者の年齢構成は50歳～70歳以上で約50%弱を占めています。中高年から高齢者の登山者が増えています。

## 遭難件数は増えていますか？

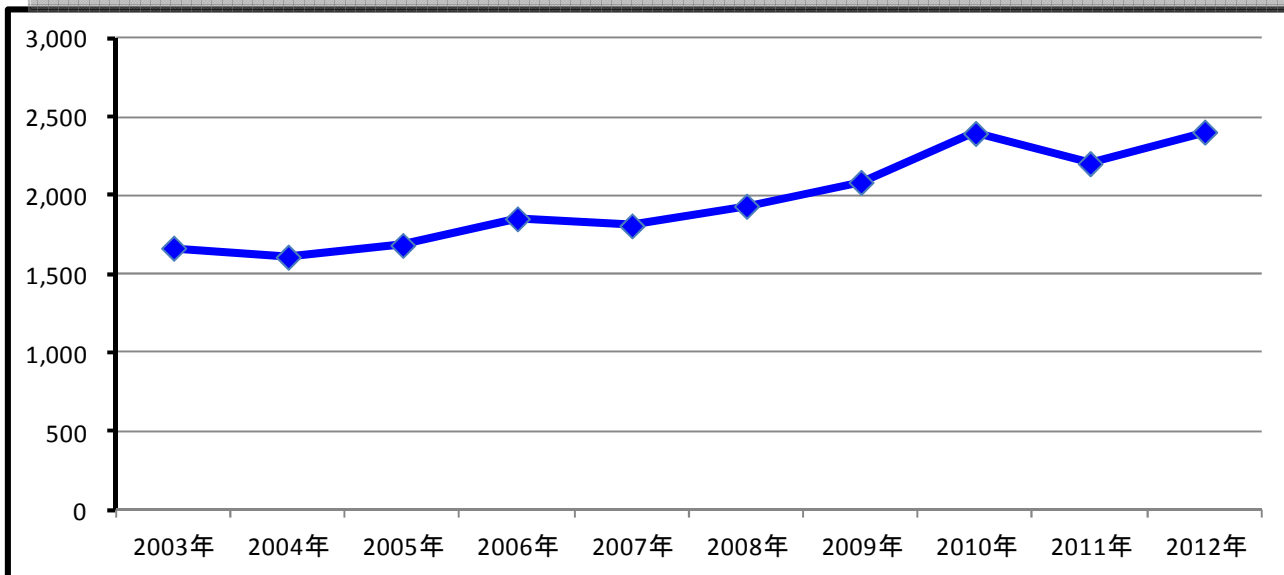


過去10年間で遭難件数は増えていますか？



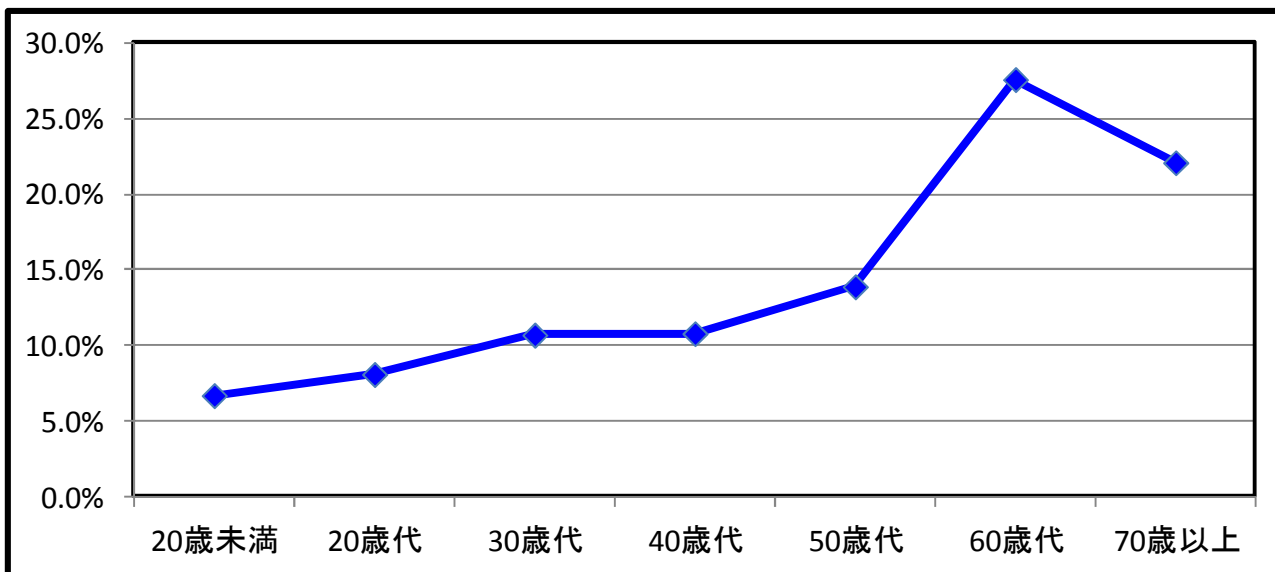
登山者数が増えるに従って、遭難件数も増えています。その年齢構成を分析するとやはり50歳～70歳以上が多いです。

### 遭難件数の推移



2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
1,666	1,609	1,684	1,853	1,808	1,933	2,085	2,396	2,204	2,405

## 遭難者の年齢構成



20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
6.7%	8.1%	10.7%	10.8%	13.9%	27.6%	22.1%

遭難者の年齢構成ではやはり50歳～70歳以上で約60%超です。中高年から高齢者の登山者数が増えるとともに遭難者も比例しています。

## 遭難の原因と遭難対策

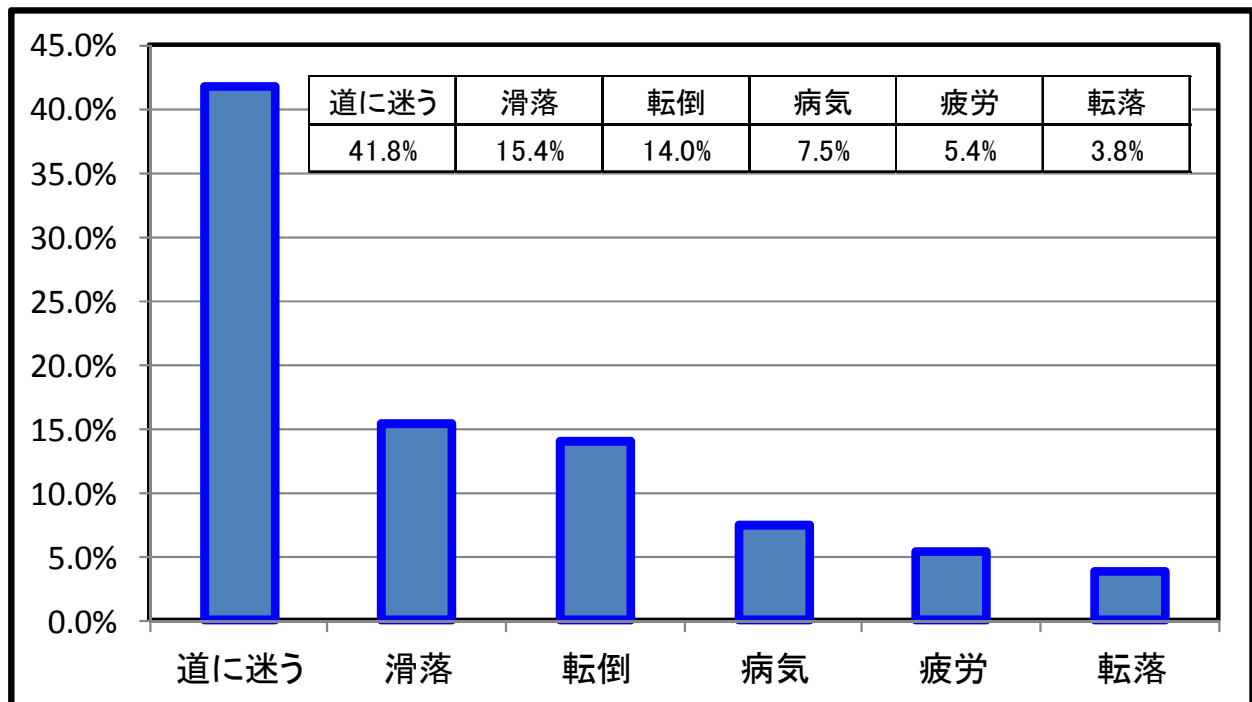


遭難原因は？



遭難原因のベスト3は「道に迷う」「滑落」「転倒」です。グラフに記されている原因以外では、悪天候、野生動物襲撃、鉄砲水などがあります。道に迷うは登山前のルート確認などの事前準備をしいていないことが要因といえます。

### 遭難原因



## 遭難対策



## 遭難防止対策は？



## ■遭難の未然防止対策

山岳遭難の多くは、天候に関する不適切な判断や、不十分な装備で体力的に無理な計画を立てるなど、知識・経験・体力の不足等が原因で発生していることから、遭難を未然に防ぐため、登山に当たっては、以下のような点に留意が必要です。

## ●道迷い防止

地図とコンパス等を有効に活用して、常に、自分の位置を確認するよう心掛けます。

## ●滑落・転落防止

滑りにくい登山靴、ストック等の装備を有効に使用するとともに、気を緩めることなく常に慎重な行動を心がけます。

## ●危険箇所の把握

計画を立てるとき、滑落等の危険箇所を事前によく調べます。



### ●的確な状況判断

視界不良・体調不良時等には、滑落、道迷い等のおそれがあることから、状況を的確に判断して早めに登山を中止するよう努めます。

### ●登山計画の作成、提出

気象条件、体力、体調、登山の経験等に見合った山を選択し、登山コース、日程、十分な装備、食料等に留意して、余裕のある、安全な登山計画を立てます。

単独登山はできるだけ避け、信頼できるリーダーを中心とした複数人による登山に努めます。

また、作成した登山計画書は、家庭や職場、登山口の登山届ポストなどに提出しておきます。